

今と昔の生活 -戦争が影響した生活-

話し手 安藤隆夫

聞き手 原口貴幸【埼玉県立松山高等学校一年】

佐藤悠馬【埼玉県立松山高等学校二年】

小さい頃はよく手伝わされたな

畑仕事は、早くにおふくろに死なれちゃったから、小学校5年のころからほとんどやってたよ。それで朝5時くらいから田んぼへ行かなきゃだから、それよりも早く起こされたもんだ。

田植えとか、まして昔は今と違ってトラクターとかないからさ、牛を引っぱって。子供だって角をついてれば牛にもげやしねえから手伝った。それで一人じゃ出来ねえから子供使うほかない。

それで戦争が始まったぐらいから、農繁期って言って畑の手伝いをするように、いくらか学校が休みになったんだよ。

そりゃあ確かに条件の良い家は子供が動かなくても平気だけど、そういう家はあるわけねんだよな。

昔は肥料なんてあんま無かったから、牛とか馬のフンを使ってた。朝飯前に草刈りに行ってきて牛や馬にくれんだよ。んで食い残りや糞がたい肥になるんだよ。だからものぐさしてる暇ねんだよな。ほんで牛小屋は、今ならきちっとしてあるから出られる心配はねえけど、昔は掘立小屋みてえのだからな、牛に出られちゃって大騒ぎしたもんだよ。

戦争時の学校生活

学校に行くときは弁当を神社に隠してた。学校に弁当を持ってくと休み時間に外に遊びに行行って戻ると弁当はねえんだから。町の方の子が食べちゃってんだよ。確かに町の方の子は食べ物が無いかんね。こっちで百姓やってるのは芋とかあったからね。だから学校にはカバンだけでもってった。そうすればやつらに食われることはない。

あと、小菅空港と日光空港があつてよ、そこに半日交代ぐらいで働きに行ったよ。だけど、子供だから、何も出来やしなからね、荷物運びとかだった。

東京行けば仕事がある

俺さ、ずっと東京で働いてたんだよ。んで岩手から来た人は親が米を送ってきたんだよ。車で紙袋に30キロ入ったのを二つ積んでな。でも、会社にくれば社宅あるけど、米つつうもんはどこへ行っても必要なものだから。

家から出たことない子だから、修学旅行以外に親から離れたことねえがね。ほんで仕事すると汚れるから洗濯するけど、地下のボイラー室の洗濯するところは良いものだけ洗濯するようになってん。それ知らねえわけだよ。自分で洗濯したことねんだから。それで汚れたやつを洗濯機に入れとくだけなんだから。家ならそれで済むんだけど。んで朝「着がえろ」って言うのと「ありません」って言うんだから。ほんで「みな汚れちゃったので洗濯機にあります」って言うんだから。だから洗濯機の使い方まで教えるようだったよ。そういう子がいたんだ。作業着はきちっとしなきゃダメだった。会社のメンツにかかわるからね。だから作業着にもうるさかった。地方の仕事が多かったけど上下白でコックみたいに綺麗にしてねえと入れてもらえなかったよ。

【取材日 平成26年7月30日】

プロフィール

安藤隆夫 あんどうたかお

昭和6年9月1日生・83歳・農業

小学五年の時に母親を亡くし農業の仕事を手伝っていた。22、3歳ぐらいまで石堀の仕事をしていて少しすると東京に行って仕事をしてた。今は自宅で農業をしている。

～取材を終えての感想～

今回取材をしてみて、今とは比較にならないぐらい大変な時代だということがわかった。